伯剌西爾時報
發行所 伯剌西爾時報社
電話 七〇七六-四七〇
社長 石渕作馬 Director M Sameshima
購讀料 一ケ年 六十斜 一ケ年 三十斜
廣告料 御照會次第御報知は御返信
珈琲 サントス四級 ノーナル 十キロ 一二〇〇〇
為替 對日 一九、七〇〇 四、六六五
對米 一〇〇五 五、六七〇

武勳輝く譽れの將星に
畏れ多くも御陪食賜る
御嘉賞の勅語を拜し
高須中將以下光榮に感激

【東京十四日同盟】天皇陛下には十四日正午、此の程輝く武勳を擔つて歸還した前南支方面海軍最高指揮官高須四郎、前北支方面海軍最高指揮官野村直邦、井一成美各海軍中將、山口多聞、大西瀧治郎兩海軍少將等を召され御慰勞の思召を以て午餐の御陪食を仰付けられた、御これに先立つて參須中將、山口、大西兩少將は午前十一時表御座所に於て伏見軍令部總長宮殿下、及川海相侍立の下に、天皇陛下に拜謁仰付けられ高須中將より具に前線の軍狀を奏上、畏くも、天皇陛下には優渥なる御嘉賞の勅語を賜はつた

米の指導下
ウルグアイに海空軍基地新設
與論沸騰、外相說得に努む

【ブエノスアイレス十三日同盟】米洲共同防衛問題に關聯して米國指導の下に、ウルグアイに海空軍基地を設置する計畫があるとの報道が、ニューヨーク・タイムスにより傳へられるや、ウルグアイの輿論は沸騰し、多くの新聞等これに批評の意見を述べてゐるがこれに對しグアニの相は政府の意圖を體し、十三日、本計畫は米洲共同防備を強化せんとするものであり、決して領土主權を侵害するものではないと聲明し、專ら輿論の說得に努めてをり、その成行は注目されてゐる

米ソと通商斷絶の意なし
長官一代つてウエルズ次官語る

【華府十三日同盟】ウエルズ國務次官は十三日ハル長官に代つて記者團と會見、伯林に於ける獨ソ會談、ウルグアイの海空軍基地經營指導などに關する質問に對し、夫々左の如く語つた
一、獨ソ會談と米ソ交渉
ヒットラー、モロトフ會談が米ソ關係に及ぼす影響に關しては論評を避けたが、日下の處米國政府としては通商問題に關するソ聯との交涉を中絶する意向は無い旨、言明した
一、ウルグアイ海空軍基地問題
【東京十三日發】エービー電によれば、日本陸海軍最高首腦部及び閣僚會議は本日、天皇陛下の御臨を仰ぎ、午前二時間に亘り宮中に於て御前會議が開かれた、或確かなる筋に於ては今次の會議は、十三日ベネチュア宮にムッソリーニ首相を訪問懇談を遂げた後、ゴルヤ伊土木相との間に土木事業に關する兩國協定の締結を見るに至つた

モロトフ外相
獨首腦とレセプションに臨む
伯林引揚は十四日中か

【伯林十三日同盟】モロトフ外務人民委員の伯林滯在第二日の十二日は、リッベントロップ獨外相との會見が延期された儘豫定の如く駐獨ソ聯大使主催のレセプションに移つたが、半實モロトフ人民委員を初めリッベントロップ獨外相、フリック內相、ドルプミューラ交通相、ヒムラー親衛隊長他重要當局の首腦多數が出席し盛會裡に擧行された、尙この席上獨ソ兩國の基地使用のみの權利を獲得する爲めの取決めを行ふ事とのみの何れを問はず示唆した事も又要求した事實も無いと言明した、但し借款とか割讓とかの形でなく、單に米洲諸國は有り得るかとの質問に對しては何ともお答へしかねると述べた

日支新協定成立せん
——P・A電報道——
O Programma dos Nipponicos com relação à China,

【東京十三日發】ドメイ通信社によれば、日本陸海軍當局は本日、天皇陛下の御臨を仰ぎ、午前二時間に亘り宮中に於て御前會議が開かれた、或確かなる筋に於ては今次の會議は、十三日ベネチュア宮にムッソリーニ首相を訪問懇談を遂げた後、ゴルヤ伊土木相との間に土木事業に關する兩國協定の締結を見るに至つた

獨伊と積極提携
佛、內政整備に着手
先づ全國二十地區に分割

【ダシー十三日同盟】佛政府は獨伊との積極的提携に依り歐洲新秩序の建設に參加すると共に、ペタン首相は十三日外相直屬せしめる、地方長官は行政だけに携はるものであるが地方長官との間には何物をも介在せしめぬ方針である、子は更に秩序と勝利回復の爲めの機構を確立する心算でゐる、この機構は急速、且つ円滑に活動せしめられるであらう

我荒鷲
滇緬公路を痛爆
在外武官異動

【香港十四日同盟】大公報昆明來電に依れば、十三日我空軍はアン緬公路を猛爆、更に昆明をも爆撃し、甚大なる損害を與へた

【東京十四日同盟】在外武官異動
陸軍少將 坂西一郎
補獨逸國在勤帝國大使館附武官
獨逸國在勤帝國大使館附武官 陸軍少將 岡本清福
免本職

英機、伊艦隊猛爆
主力艦三隻大損害蒙る

【ロンドン十三日同盟】英海軍省發表に依れば、英空軍は去る十一日タラント港にイタリー艦隊を襲撃、カプール級

北京在住米人第二次引揚げ
十四日百名天津着

【天津十四日同盟】國務省の引揚げ勸告に依る第二次北京米人引揚げ者約百名は、十四日午前九時四十分天津驛着、天津から米艦駐屯軍司令官ピンソン・佐夫人を初め

益々增加の郵便貯金
十一月八日遂に百億圓突破

【東京十四日同盟】預金部資金は昨年八月七十億円を越えたが、その後も郵便貯金の增加依然旺盛で、且つ貯金、債券報國債券も好實行きを示し八日遂に百億円突破を示現するに到つた

小麥市況

小麥市況、西南部產地大候の良好の報、政府買資への持ち込みが控へられた事を勘めて、初め安かつたが後株高に勇着き大陸手形變らず、ドル未着、六〇四、二三四七、

日獨伊同盟成立と其前後
——三人の泥棒と倫敦で毒づく——（一）

九月二十七日午後一時十五分（日本時間午後八時十五分）日本國民は永久に銘記しなければならぬ世界の平和建設の意氣において世界史上にその例を見ない日獨伊同盟條約はこの歷史的な、ベルリン總統官邸大使の間においてわが來栖大使、リッベントロップ獨外相チアノ伊外相の間に調印を終つたのである。こゝに同日夕わが外務省から發表された條約要旨を紹介しよう。

一、日本國およびドイツ、イタリー國間三國條約要旨
大日本帝國政府、ドイツ國政府およびイタリー國政府は萬邦をして各その所を得しむるをもつて恒久平和の先決要件なりと認めたるにより、大東亞およびヨーロッパの地域に於て各その地域における當該民族の共存共榮の實を擧ぐるに足るべき新秩序を建設し、かつこれを維持せんことを根本義となし、右地域においてこの趣旨によれる努力につき相互に提携し、かつ協力することに決意せり、しかして三國政府はさらに世界至るところにおいて同樣の努力をなさんとする諸國に對し協力を吝まざるものにして、かくして世界平和に對する三國終局の抱負を實現せんことを欲す、仍て日本政府、ドイツ政府およびイタリー國政府は左の通り協定せり

第一條 日本國はドイツ國およびイタリー國の歐洲における新秩序建設に關し指導的地位を認め、且これを尊重す

第二條 日本國、ドイツ國およびイタリー國は前記の方針に基く努力につき相互に協力すべきことを約す さらに三締約國中いづれかの一國が現に歐洲戰爭または日支紛爭に參入しをらざる一國によつて攻撃せられたるときは三國はあらゆる政治的、經濟的および軍事的方法により相互に援助すべきことを約す

第四條 本條約實施の爲め日本國政府、ドイツ國政府、及びイタリー國政府により任命せらるべき委員より成る聯合專門委員會は遲滯なく開催せらるべきものとす

第五條 日本國、ドイツ國およびイタリー國は前記諸條項が三締約國の各とソビエト聯邦との間に現存する政治的狀態に何らの影響をもおよぼさざるものなることを確認す

第六條 本條約は署名と同時に實施せらるべし、實施の日より十年間有效とす 右期間滿了前適當なる時期において締約國中の一國の要求に基き締約國は本條約の更新に關し協議すべしいまからもう四年ちかく前になる一九三六年（昭和十一年）十月二十六日、ベルリンで日獨防共協定が調印されたときその氣魄を吸ひつけたロンドンの新聞などはしきりに協定の內容を報じ、そしてしきりに揣いたものだが、それから一年の後こんどはローマで日獨伊三國間に新しい協定が調印されたときにも、その防共協定が調印されることになつたのときも、また英國の新聞はまるで自分の國が共產主義でもあるかのやうに激起になつて怒つたものだつた、隨分目にあまるやうな失禮千萬なことを日本に對しても書いてゐたが、そのなかで特に癪に障つたのはタイムスが社說でもつてこともあらうに「三人の泥棒」と題して日獨伊三國を嘲つたことだつた

獨伊土木協定成る
兩國土木相間で調印終了

【羅馬十三日同盟】十三日羅馬に到着したゼルテ獨勞働相は、十三日ベネチュア宮にムッソリーニ首相を訪問懇談を遂げた後、ゴルヤ伊土木相との間に土木事業に關する兩國協定の締結を見た

建川大使
獨ソ會談へ參加
二日伯林へ急行

【ストックホルム十三日發】當地に達せる報道によれば、新任駐ソ日本大使建川中將は本日モスクワ出發、伯林へ急行、モロトフ外相と同道、ヒットラー總統主宰の獨ソ會談に參加するといふなつた

「あばれ大名」
久我荘多郎

（二百五十二）

（さくら繪）
流々轉相（四ノ一）

前……。

鶴逸ひ機の番屋の前で、用船崎屋の用心棒、志水孫內と、形九郎太に出會つた濱岐藩の天覺武藏士、兵藤左近は、しぶつてゐる兩名をいざなつて雨崎屋の店へ入れたが、一體そこで、何を揉めたこと か？

「おゥ、先生がた……それに兵藤の旦那も御一緒で——思ひがけない來客に、意の面持になりながらも、加丹の重三、（あの坊主はどうしました と、志水、尾形の兩士に、いそがしい目交ぜを呉つた。用心棒ふたりは、氣まづく首を横に振つてゐる。

とにかく、店先での話はともも、いま噂聲が垂れこめてゐるのだ。あゝ、主家の御恩は危いかな！

愼重するやうに、さう漏らす と座に就くなり、左近はまして——、左近は、

「——」

と、かたちを改めた。

「今日までのなみ〳〵ならぬ障害も、これ獅りと考へても らひたい。いづれ濱邸より正式に、何分の沙汰があらうと思ふが

それだけいふと、左近は、小間そこ藤を中を離つて行つた。あとに重二たち、しばらくは言葉も發せずに、獸々たちもしほれてゐた。が、やがて、重三が顏を上げて、仕方がねえ。これも浮き世の成行きだらう」

「どうするか、この先？ 重三どん」——そんなお達しが出た以上、それでなくとも危ふくなつてゐるこの店です。マが吹いて來る。一眼ひにこゝを揃へて、旦那の酔へ行くことにしませう」

「では——」もう幾円ひとり近は治たくかぶりを振つて見の御用に、心を配つてゐる御せた。「解しかねることのみ、台でない、雨崎屋は戰鬪のやで、樣子はトンとはつきりせうな話亂に陷つた。

經濟新體制確立の重點
産業部門と金融界の關聯方法
金融協議會東京懇談會開かる

【東京十三日同盟】金融協議會東京懇談會は十三日、日銀に開催、津島委員より小委員會の經過を聽取の上、更に檢討を加へた結果、特別委員をたて、金融不振の原因を探りこれを十四日開催の金融協議會幹事會に諮り正式決定した事項を一般にも發表し、その上金融界全體の意嚮として關係當局に働きかけ、その趣旨實徹を計る事になつた、然し右原案は形式的な序列關係には拘泥せず産業部門と金融界をどう云ふ風に結びつけるゆが一番經濟新體制の實質的効果を擧げ得るかと云ふ點ひ所に立つもので問題は金融界の關知する擔合に限定してるが、金融各部門と各種産業部門との具體的關聯方法を規定してるものと觀られる

躍進！滿洲重工業
明年度事業計畫の全貌

【新京十三日發】滿洲重工業總裁下の子會社の明年度計畫は、大體左の如くである

滿炭　阜新、撫順、西安、鶴岡、密山の徹底的開發に主力を注ぎ、特に製鐵用炭の手當萬全を期す

昭和製鋼　瀋炭の增産に依り、フル運轉を圖り、第五次、第六次の擴張計畫及びルツペの增産計畫を遂行する

本溪湖煤鐵公司　第一期擴張計畫の早急なる完成を期し、宮原製鋼工場の完成に依つて特別鋼、塊炭鐵の增産を圖る

東邊道開發　鐵鑛、石炭の各鑛山の既定開發計畫を實行し、二道江製鋼、製鐵製造設備を完成する

協和鐵山　協和鐵山の開發に重點を置く製鋼工業のフル運轉を圖る

滿洲國鑛山　青城市（鉛）撫水（金）東方柴（金）等の第二期計畫を遂行する一方、熱河に於けるバナジウム、モリブデン開發を促進する

滿洲輕金屬　撫順工場のフル運轉及び安東工場の建設を促進し、又滿洲マグネシウムは、三月よりフル運轉を實施する

同和自動車　修理工場新設擴張に重點をおき、代用燃料の研究を行ふ

滿洲飛行機製造　本年度に於て設備の擴張に努めたので、明年度より活動が一層強化される

大阪商工會議所
貿易懇談會開く
圓ブロック向け輸出問題

【東京十三日同盟】大阪商工會議所では円域輸出の円滑を期する爲め、興亞院及び滿洲國關係官の出席を求めて、輸出金融、運輸關係業者を招集明十五日大阪ホテルに円ブロック貿易懇談會を開催

一、現行貿易統制機構に關する件
二、價格並びに數量統制に關する件
其他各問題に就て懇談する筈である

一億弗の借款供與
米亞貿易軌道に乘るか
亞國使節團・彼地で活躍

【ワシントン十三日發】AP電所報に依れば、亞國駐米經濟使節團長、中央銀行總裁パウル・プレビッシュ氏は昨日の北米財界筋との會談に就き

今次歐洲大戰に因る米亞兩國關係の不円滑は竟く、根本的解決を見る可能性があると言明した

又同氏は當面問題解決のため亞國が米に一億ドルの借款供與を求めてゐる事實を肯定し問題は借款のみであれば容易に解決點に達するであらうと述べた

尙ブエノス市筋では、亞國は米の援助を仰ぎ、同國のロンドン市場に於ける商品買付余剩金を以て、對英貿易問題も調整するであらうと取沙汰してゐる

伯國の畜産物
米の觸手動く

【桑港十四日發】紀元二千六百年祭典に參列の光榮に浴し興亞大使館參事官一行は十四日午前來濱した鈴木天市長、榮南京市長、濱天津市長外瀧支各市長六十一名の一行は十四日午前來濱各所を視察した後橫濱市長招待の午餐會に臨んだ、午後は箱根に赴き同夜一泊する豫定

滿支の市長連
橫濱に遊ぶ

重慶側はデマ宣傳に躍起となり、無謀にも最近欽縣周邊に

欽縣周邊に蠢く
殘敵の頭上に巨彈
陸海驚共同の爆擊行

【南支〇〇基地十三日同盟】我が南寧の自主的擧措に對し

ヒットラーの温情
何と！官邸のお客樣
身寄のない子供や妊婦

【ベルリン發特電】ナチ外交動車で學校へ通ひ絨毯たちにはドイツ式の規則正しい生活日課が出來上つてゐて綠色濃い中庭には突然"總統"と總統を取卷く絨毯部隊の散步姿"といふ珍風景が出現したりするこの防空室は兒童六百名、絨毯百廿名の收容力を持つてゐるが、總統側近者の間ではこの國家社會主義的溫情

●御前會議（重大國策決定の爲の御前會議）は二十四日午前十時から開かれる豫定の方針が決定したと外電が傳へた日支和平が愈々近づいたらしい

●日露戰爭當時の總司令官大山元帥の孫の乘馬將軍建川大使伯林へ急行、獨ソ會談に加はつたらそう急がないで下さい

●北京在住米人がまた服擔げた、とつて食ふ譯でもないからいでない

●伊國艦隊英艦に擊沈され主力艦三隻被害傳ふ、伊太利よりローマ武士の面目にかけても

●佛印が日本と提携するは宿命的だ、遲はずその方向へ進むべし、ドター總督は渡邊に先がよく見へる

新體制・一束れ
營利の神樣へ
絕緣の宣告

文部省では先の「營利の神」マーキュリーを象徴した徽章が公益されてゐる、營利の神校長會議と關聯して省内で公私立實業專門學校長會議を開催、教育內容の充實、刷新、戰時學生生活の確立などについて協議したがその席上、東京商科大學初め多くの公私立商業學校で使用

畫酒はイカン
麻雀も自肅體制

船客新體制への擧國的參加機運に反して海上旅行者のみが開放的であるのに鑑み、神戸水上署では陸上と以內の範圍で延長を認めるゝ）を含み一回の興行時間は二時間卅分とす

【實施時期】製作本數制限が明年一月一日、興行時間制限が六大都市が明年一月一日その他市町村は明年七月一日である

製作本數を指定
興業時間は二時間半

【東京發】映畫界新體制の重要問題として注目されてゐる劇映畫製作制限および興行時間制限は內務、文部兩省關係官、各映畫協會理事、各映畫會社代表が出席、東宝會館で開かれた官民懇談會で次の通り意見が一致した

【製作本數制限】映畫法第十八條の規定により松竹、日活、新興、東寶、大都五社の一ケ年に製作すべき劇映畫は四十八本以內および一千百米突以內二十四本、南旺、東發の二社は六本以內および一千百米突以內三本、全勝、極東の二社は追つて決定

【興行時間制限】幕間の興行者の休憩時間と文部大臣の認定したる時事映畫（ただし昭和十六年三月卅一日までは一回の興行時間に算入せず）および文化映畫二百五十米まで（ただし二百五十米を超過するものはこれに要する時間に限り卅分以內の範圍で延長を認める）を含み一回の興行時間は二時間半とす

【實施時期】製作本數制限が明年一月一日、興行時間制限が六大都市が明年一月一日その他市町村は明年七月一日である

新體制・一束れ
營利の神樣へ
絕緣の宣告

文部省では先の「營利の神」マーキュリーを象徴した徽章が公益されてゐる、營利の神校長會議と關聯して省内で公私立實業專門學校長會議を開催、教育內容の充實、刷新、戰時學生生活の確立などについて協議したがその席上、東京商科大學初め多くの公私立商業學校で使用

畫酒はイカン
麻雀も自肅體制

船客新體制への擧國的參加機運に反して海上旅行者のみが開放的であるのに鑑み、神戸水上署では陸上と以內の範圍で延長を認めるゝ）を含み一回の興行時間は二時間半とす

【實施時期】製作本數制限が明年一月一日、興行時間制限が六大都市が明年一月一日その他市町村は明年七月一日である

製作本數を指定
興業時間は二時間半

【東京發】映畫界新體制の重要問題として注目されてゐる劇映畫製作制限および興行時間制限は內務、文部兩省關係官、各映畫協會理事、各映畫會社代表が出席、東宝會館で開かれた官民懇談會で次の通り意見が一致した

【製作本數制限】映畫法第十八條の規定により松竹、日活、新興、東寶、大都五社の一ケ年に製作すべき劇映畫は四十八本以內および一千百米突以內二十四本、南旺、東發の二社は六本以內および一千百米突以內三本、全勝、極東の二社は追つて決定

【映畫興行時間制限】幕間の興行者の休憩時間と文部大臣の認定したる時事映畫（ただし昭和十六年三月卅一日までは一回の興行時間に算入せず）および文化映畫二百五十米まで（ただし二百五十米を超過するものはこれに要する時間に限り卅分以內の範圍で延長を認めるゝ）を含み一回の興行時間は二時間半とす

【實施時期】製作本數制限が明年一月一日、興行時間制限が六大都市が明年一月一日その他市町村は明年七月一日である

上海市政府
首腦部異動

【南京十四日同盟】上海市政府首腦部人事は十二日の行政院會議に於て左の如く決定した

袁　厚　夕　低　財政局長
浚　憲　文　低　社會局長
蘇　鍔　文　低　厚生局長兼市政府秘書長
周　友　常　財政局長
吳　文　中　社會局長
王　長　春　厚生局長
葉　雪　松　低　市政府秘書長

◇　◇　◇

上海爲替
【上海十四日同盟】爲替（買若干附き對英三片六十四の四十七對米五弗八の七、軍票六十二円四の一貰り、六十二円二の一貰ひ

味と香りのネスコーヒー
よくきく、のみよい肝油ハリバ

錄除

●北京在住米人がまた服擔げた、とつて食ふ譯でもないからそう急がないで下さい

●御前會議（重大國策決定の爲の御前會議）は二十四日午前十時から開かれる豫定の方針が決定したと外電が傳へた日支和平が愈々近づいたらしい

●日露戰爭當時の總司令官大山元帥の孫の乘馬將軍建川大使伯林へ急行、獨ソ會談に加はつたらそう急がないで下さい

●伊國艦隊英艦に擊沈され主力艦三隻被害傳ふ、伊太利よりローマ武士の面目にかけても

●佛印が日本と提携するは宿命的だ、遲はずその方向へ進むべし、ドター總督は渡邊に先がよく見へる

KANAKAO S/A
新入荷 リオ・グランデ・マタドル肥料
英國製硫酸銅 肥料、農具、染品、ニカワ
カナカオ化學工業株式會社
サンパウロ市テオドロ・サンパイオ街二七七六番 郵函 二一八六 電話 八・二五八七 電話 二・六六三七

Autos Collectivos "AUDAX"
Av. Rangel Pestana, 64 S. Paulo (Esq. R. 11 de Agosto) Tel. 3-4729
SANTOS R. M. Affonso, 44 Tel. 7220
S. VICENTE R. M. Affonso, 182 Tel. 297
表
聖市發 サントス發 サンビセンテ發 マ・アポンソ街發
平常日 七・一五 九・一五 一二・一五 二・一五 四・一五 六・四五
日曜祭日 六・四五 七・一五 八・四五 九・四五 一〇・四五 一二・一五 二・四五 四・一五 六・四五 七・一五
片道 9$000
賃切にて應じます。

Dr. Alarico Franco Caiuby
ADVOGADO E
Tsuguo Kishimoto
TRADUTOR PUBLICO
Escritorio: R. José Bonifacio, 233
3.o and. salas 310/312 - Tel. 2-1137
C. P. 1124 São Paulo
辯護士 法律一般
翻譯
日本 アラリコ法律事務所
公証翻譯人 岸本永男
アラリコ・フランコ・カユビー
事務所 聖市ウロセ・ボニファシオ街二三三番 三階三一〇―三一二號室
郵函一一二四 電話二一一三七

CASA SELECTA
RUA GENERAL CARNEIRO, 31 antigo 7
Proximo ao Largo do Tezouro — Telefone 2-4916
明日！驚異の恒例大賣出し開始
獨身者向クレトーネ 幅1.40のもの 2$700 又は 3$300から
既婚者向クレトーネ 幅2.00なもの 4$400 又は 4$800から
獨身向コルシア 7$200 又は 8$500から
カザール用コルシア・デ・フストン 10$200 又は 11$500から
カザール用コルシア・デ・セーダ 180/200のもの 27$800 又は 28$500から
カザール用コルシア・デ・ベルード 180/220のもの 特價 16$800から
獨身者用レンソール クレトーネ 7$200 又は 8$500から
枕掛布 45x60 極上 1$700 又は 2$000から
枕掛布 60x60 極上 2$600 又は 3$000から
ガルニソン・バラ・シヤ 極上品 1.40 ガゼダナッポ六枚つき 8$500 又は 10$500から
寢台用品レンソール 2.50 枕掛布二枚60x60のもの（極上ボルタード） 28$500 又は 31$500から
カーテン 150x250のもの 8$800 又は 11$500から
アコルシヨアード フエイト ア モン
カザール用 チトン 40$000 ナランロヤール 75$000
セテン ルミエール 175$000
毛布 花嫁用品 リンニヨ・ベルジカ
ラン 木綿物 至廉 一切特價 2.20メートルのもの 敷布用 23$500 又は 32$500から
絹 フアソネー メートル3$40から。モンゴール ナチユラル 幅0.80のもの 5$200 又は 6$200から。ルミエール極上品 幅0.90のもの 9$800から。新模樣 入幅0.80のもの 7$500 又は 8$500から。

R Monteiro & Cia
CASA MATRIZ E ESCRITORIO
Rua 25 de Março, 533
Caixa Postal, 1646 - Telephone, 2-4388 - São Paulo
Casas Filiais:
Rua José Bonifacio, 43 Esq. Bocayuva Telephone 2-5510
Rua 15 de Novembro, 12-18 Telephone 2-1781
Av. Rangel Pestana, 1475 Telephone 2-9837
Casa Filiais:
Rua Boa Vista, 199 Telephone 2-3688
Santos
Rua Gen. Camara, 79 Telephone 5657
Rio de Janeiro
Rua Uruguayana, 106 Telephone 23-5067
IMPERIAL CASIMIRA MARCA REGISTRADA
◆弊店は伯國最大の反物店で內外優秀のカジミーラを豊富に仕入れて居ります
◆尙歐洲よりブリン、麻、バームビーチ、トロピカル等本年夏向きとして種々多量に仕入れました
◆アズールマリニヨのタルジア地一米十八ミル以上
◆弊店は國產優秀カジミーライムペリアルの總代理店
◆地方より御出聖の折は是非御來店の程を
◆尙地方へは見本をお送り致します

海興銀行
CASA BANCARIA IMIGRATORIA LIMITADA
São Paulo – Registro – Pedro de Toledo
Lins — Araçatuba — Londrina

YAMASHITA LINE
山下汽船株式會社
往航 桑港 — 紐育 — 巴米 — 定期航路
復航 南米 — ニユーオルレアンス — 羅府 — 桑港
太平洋岸、フイリピン行貨物檢查引受候
使用船壹萬噸型新造優秀貨物船
山彦丸　山月丸　山里丸
往 十一月廿六日頃　往 一月十九日頃
復 十二月十二日頃　復 二月四日頃
山霧丸　山風丸　山浦丸
往 十二月十八日頃
復 一月五日頃
詳細は左記弊社代理店にお問合せ下され度候（貨物船に付き旅客運送は勝手乍ら御斷り申上候）
サントス市 JOHNSON LINE AGENCIES
Praça da Republica 22 Telephone 4694 e 5107 Santos
聖市 L. FIGUEIREDO & CIA.
Rua Libero Badaró, 92 - Phone 2-7125 - S. Paulo

社告
讀者愈々御隆昌之段奉賀候、陳者弊社外交員及支社員が當地方に巡回致し居る事は既に御承知の通りに有之候處最近、弊社は是等とは別に購讀者各位全般に亘り料金御拂込懇請勸を殺攻致し居り其の效或は出先社員と重複再請の場合無きにあらずと思料せられ恐縮に存居候次第に候へ共右は出先社員と本社間の通信連絡上の延着若しくは行違ひの結果に外ならずして之は決して故意に出でたるものには無之に付此儀重々も御諒察の上萬一上にも斯かる擧合有之候節は何卒葉書の御寄越御申情を以て幾重にも御寬恕賜はり度奉懇願候
敬具
購讀者各位殿
伯剌西爾時報社

ミツワ旅館
聖市目拔の場所盛業中のバール都合により讀渡し度し
價格拾八コントス現金
詳細は左記へ
聖市タバチンガーラ街三五
電話二―二五一四

母國獨特の觀賞植物の苗
◆菊類一祇園精舍 苗一株 八仟
飾黃錦 一株四、〇〇〇
國の光 一株四、〇〇〇
◆百合類 鹿子百合 一株五、〇〇〇
高砂 仝 三、〇〇〇
鐵砲 仝 二、〇〇〇
白花 仝 一、〇〇〇
紫花 仝 二、〇〇〇
◆あやめ
◆ダリア（菊形大輪）花七色あり 一株 三、〇〇〇
時報商事部

けふ伯國共和宣言 第五十一回記念日

各地で盛大な記念祭擧行

一八八九年共和制體變革の聲は、爭伯國に漲り、同年十一月十五日午前二時テオドロ・フオンセッカ元帥の革命の赤旗擧がり各地軍營之に應ずるに及ぶや、晩年心身衰弱して自ら政務を執るに困難を感じてゐるドンペードロ二世は、大勢の動きを如何ともなし能はず、遂に王位を降り、同日午後三時、ムニシパール・カマラ廣場にて共和宣言が行はれた、斯くて伯國共和制體實現の革命は何等乃に劉らずして成り、光輝ある共和制體に轉換し、けふ第五十一回の宣言記念日を迎へたのである。擧市に於ける記念祭は既に昨十四日より盛大に擧行されてゐるが、本日のプログラムは左の通りである

（カットはテオドロ・フオンセッカ元帥）

一、正午　アライデ女史及び軍樂隊のラヂオ放送
二、午後五時半　アシスプラジル丈佐のラヂオ放送及び軍樂隊
三、同七時　オクタビオ・アルベス中尉のラヂオ放送
四、同十時　法科大學教授シネジオ氏のラヂオ放送

（カットはテオドロ・フオンセッカ元帥）

ブラジルが共和宣言して今日は第五十一回目の記念日に當ります、此の佳き日を共に祝ひませう

◎今を時めく參謀總長杉山大將の手紙を手にした坂元靖台、昔を思ひ起して感無量、これは是非額に入れて壁間に掲げ家の誇りにすると大喜びで

◎先般歸朝命令に接し五月九日リオを立つて伊太利ー瑞西ー獨乙等を視察の上シベリヤ經由で歸國の途についた元聖市出身の總領事館勤務部青木熊夫氏は去る八月七日無事歸朝數年振りで懐しい母國と日本紙幣——これは切つても切れぬものらしい、所が管理法違反の嫌疑と各自の自發によつて最近の歸國者が郵便にて携行する郵便物が見えるのは流石遵法の民として喜ばしい

◎昨日、一昨日聖市テアトロ・サンパウロで上映された松竹大船作品「地上の星座」は兩日ともに三千人餘の觀客押しかけ超滿員の盛況を呈したサンパウロ放送女學院の學友會誌"やまと"第五號が發行された赤間校長の旅行斷片記事は讀者の胸を打つ讀物だ

◎あるぜんちな丸の代船もんでうらるで丸で神戸出發

南米大西洋岸方面市場調査のため、商吉貿易局技師を團長とする、六名からなる貿易局海外市場調査團の一行は、けふ大阪商船もんでうで神戸を出帆、十二月廿七日アルゼンチン國ブエノス・アイレス着、七日間滯在に滯在調査をなし、ロザリオに三日間、アスンシオン三日間調査の後再びブエノスへ引返してモンテビデオ三日間、リオグランデ・ド・スール三日間を經て、來年一月廿六日陸路サンパウロへ到着、當市調査後更にカンピナス、リオ、パイシカラバ、ベルナンブコ、ラゲイラ、カラカス、クリストバン等廣範圍の調査を終へて歸朝する計畫である

因に同市場調査團員氏名は貿易局技師　高吉　友次
同　谷口三華三郎
同　中西佐七郎
同　森川　覺三
同　多々良房吉
同　金内　武

帝國の方針は不動だ！

杉山參謀總長より坂元靖氏に嬉しい便り

謹啓・度々貴信に接候得共常々御無沙汰に打過候處、愈々御健勝着々御發展の趣慶賀之至りに御座候、勝山噴頭光輝ある軍旗下に青年將校の活躍さを十二分に發揮せる當時を回顧する時感無量に御座候、轉に吾等配屬せる兵營は全く其の影を失ふて堂々たる連隊廠に變り吾等の母隊は北滿の警備に任じ歸還は編制改正に依り第十二師より離れて新設師團に編入せられ轉々戰りなる變遷想像外に御座候、當時の滿友も多く去り塩田は今東京警備司令官となり松井太久郎氏は今度は師團長五郎先生と呼ばれて町民敬慕の的となつた人丈に今日の學校教育の如く服從に陰取つて威張る樣なことをせず、下に對しても親しみ込んで經濟をする位の心掛を持つて居た。從つて山縣氏の心境に對する理解も同情も人並ならぬものがあつた。山縣氏が試驗に落第して氣を腐らして居ると云ふことが解ると

「オイ山縣、軍人もよいが、人生は必ずしも軍人のみならんやだ、どうだ一つ北海道に來んか青山に伽と一所に來んか青山は日本の爲に必あるぞ。」

軍人の代りに金を儲けろ、これからの世の中は金がなければ駄目だ。北海道の漁業を見ろ、鮭度貴樣の氣に合ふと云ふのである。呑み込みの早い山縣氏のことである。

「よし！解つた、俺は一文無しだがお前に從いて行く」

から云つて傍はがばとばかり柏谷氏に抱きついた。感激し安い彼の眼から涙がぽろ〳〵とこぼれた。

「お前の旅費位は俺が少し纏濟すれば何とかなる。ちやで行つて大いに遣らう、根室には石橋と云ふ物の解る老爺が居る。」

から云つた柏谷氏は厄介者を背負込むと云ふよりは寧ろ伽山縣の樣な有爲の青年を連れて行くと云ふことは根室のため、北海道のため、大にしては日本のためだと思つた。その頃の人間には今日の功利主義萬能の時代に生れた人には理解されない一種の人間味があつた。

柏谷氏と俺とは連れ立つて根室に現つて來た。町長石橋氏は果して柏谷氏が俺を引張つて來たことに對し苦情を挿はさまなかつた。三人で色々相談の上根室の町は未だ小さいが、漁業期と休漁期とに分れて景氣不景氣の差がひどいそれには鮭鱒古衣、古道具などの賣買が面白いと云ふことで古衣、古道具屋を開業した資本は云ふ迄もなく町長石橋氏が出した。山縣氏は恐らく二十才位であつたらうと思ふが、軍人志願を一蹴するとも見榮も外聞もない成り振りかつたり古衣古道具の店とは隨分思ひきつたものである。しかしそこに俺のひたむきな、「かうとなつたら何でも遣る矢でも鐵砲でも來い」と云ふ精神がある。

古物の商賣は思つた程でもなかつたが相當の利益があつた。當年からはその利益で海產物の仲買にも手を出した。何しろあの通りな體の偉きい俺の二十代である。はちきれそうなエネルギーが肉體に盛上つて居る。働くことに夜晝の區別もない俺である。古物の商賣もよい、海產物の仲買も惡くはない。しかし何か機會がなければ此まゝで進んでは大きくなり得ない。彼は續の懇願の聲で機會を狙つて居な

Redação - Rua Fagundes, 196
Telephone 7-4670
Caixa Postal, H
Director M. Samesima

NOTICIAS DO BRASIL

Proprietario SEISAKU KUROISHI

Assignatura Anno ... 60$000
" Semestre ... 30$000
Numero de dia ... 300 reis

Gerente S. Kuroishi
Redator-chefe M. Yendo

ANNO XXIII — S. PAULO — SEXTA FEIRA 15 de NOVEMBRO de 1940 — DIARIO No. 2334

O MARECHAL DEODORO NO DIA 15 DE NOVEMBRO DE 1889

15 de Novembro é uma data caríssima a todos os brasileiros. Ela nos recorda a mudança que se operou em nossa Pátria, que deixou de ser um paiz governado pelo representante de uma dinastia, para ingressar no regimen do governo fiel que é o do povo pelo povo, o mesmo que temos hoje.

Este anno o 15 de Novembro é festejado de modo particular e especial, porque neste mesmo mês de Novembro se commemora a passagem do 10.º anniversario do governo do Presidente Getulio Vargas, que como elle de um movimento cheio de idealismo, veiu conseguir que no Brasil, afinal, se emplantassem e pudessem ser uma realidade os sonhos de progresso, de ordem, de grandeza e de unidade que tiveram Deodoro, — o Proclamador da Republica, — e seus companheiros ao decretar republicano e propagandista de acção a 15 de Novembro de 1889.

Diversas circunstancias retardaram para o Brasil e para os Brasileiros a chegada feliz instante feliz que vivemos.

Gerações passaram, e energias se perderam sem que jamais o nosso Brasil pudesse experimentar a sensação do valor, de união, de paz, de operosidade, de harmonia que todo o experimentam sob o governo que agora completa dez annos.

Desde os primeiros tempos da existencia da nossa Pátria, sempre houve quem ancelasse por um Brasil melhor. Foi, tambem, em busca de uma situação melhor para o Brasil e para o seu povo que os idealistas de 1889 proclamaram a Republica. Esse Brasil melhor vai o temos já, nos seus primeiros resultados.

Os homens de 1889 uniram-se a boa semente. E esta medrou nos 11 annos em que o governo implantado por outro movimento parecido com aquelle que Deodoro chefiou, teve então começado para a nossa pátria uma era nova que a levará aos seus luminantes destinos.

Devemos homenagear neste 15 de Novembro, em conjunto, os nomes do Marechal Deodoro que proclamou o regimen republicano, e do Presidente Getulio Vargas, que, criando o Estado Nacional, deu forma, deu unidade e deu um rumo magnifico aos destinos da nossa Pátria estremecida.

Interpretações de brasilidade

O Brasil é grande. E', alias, um dos maiores paizes do mundo.

Isso é muito bom para nós, graças a Deus. Toda esta vasta extensão territorial é bem nossa, porque não custou pouco trabalho. O conquistador e mantel-a. Si não se quizer negar justiça historica aos brasileiros de São Paulo, não se poderá dizer que a bravura do homem do altiplano não concorreu para honrar, com suas correrias sertanistas, o já vasto territorio nacional.

A incontrastavel largueza do nosso territorio e seu desdobramento pelos mais diversos meios geograficos e differenciados climas, determinaram expressões variadas da vida nacional. Si o homem baiano, nordestino ou qualquer outro do nosso mapa, continua sendo um bom brasileiro, qualquer uma dessas formas de vida é genuinamente nacional, seja a do vaqueiro nordestino, a do homem amazonico, a do mineiro quietarrão, a do paulista dinamico ou a do gaucho vivás. Todas essas variadas manifestações, coloridas pelas relações da região, são formas de brasilidade. E', justamente, essa abizarra riqueza de formas que torna mais typico e mais rico o sentido da vida nacional. Todas elas são portanto expressivamente nossas.

Não faltam, porém, pensadores creoulos que imaginam que o Brasil é mais brasileiro nos velhos engenhos ou mais autoctone no pampa do sul... Por que? Poderemos, acaso, estabelecer um canon dessa brasilidade?

Alguns ingenuos dão á formula indianista um sentido superior de nacionalismo. Isso é frivolo e anti-historico: o Brasil só nasceu com o advento do homem branco. O indio é, portanto, emocionalmente anti-nacional, ele apenas teagiu na formação racial, como teagiu o português, o negro, o holandez, o italiano ou o hespanhol.

Ha outros sociologos que imaginam que são as formas mais rudimentares da nossa vida as mais proximas da expressão verdadeira da nossa nacionalidade. Isso tambem é um crasso erro. Patrimonio de civilização occidental, logo no primeiro navio que aqui aportou, trouxe a bordo um alto signo de cultura.

Os paizes de formação recente, como o não todas as republicas americanas, não tendo, por falta de um longo trabalho historico, um typo racial unificado, não podem ter um pathos social uniforme. Caracterizam-se pois, pela riqueza das suas expressões regionaes e todas elas se equivalem como expressões da vida nacional. Os paizes de tal typo mais povoado por elementos tecnicos provindos da mesma raça modificada a espirito dessa vasta pelas relações ambientes, mais depressa unificam sua conduta social. Os que resultaram do poligenitismo oferecem obstaculos nessa conquista, mas nem por isso suas populações são menos nacionalistas que as outras. Isso porque é um fenomeno typico dos paizes novos absorver e integrar no espirito da nação as suas emigratorias.

Por que? Porque todo o emigrante é um individuo mecanicamente eliminado do seu meio de origem. Ao atravessar um oceano é já um homem em outro. Seu subconsciente percebe que a necessidade fez com que arrancasse dos seus laizes do paiz de origem. Toda a emigração é uma expulsão. O homem não pode renunciar á sua radicação ancestral a uma terra. Mutilado do seu passado, procura crear um novo. Amando uma patria, a ela se radica. O filho do emigrado, por essas mesmas razões, mais que um patriota, é geralmente um jacobino. Ele perdeu o drama paterno: o do homem que perdeu uma patria. Mais que ninguem ele se entrega com a patria adotiva dos seus ancestraes. Ai está porque, por mais diversas sejam as origens de um plasma etnico dentro de um paiz novo, mais firmes é a caracteristica dos seus habitantes.

E' verdade que nações ricas como a Inglaterra, que é um paiz que não dispõe de sobras para a imigração, mantem a irreductibilidade britanica dos seus filhos, estejam elles onde estiverem. Os romanos tambem eram assim. O inglez é sempre inglez, na primeira, segunda ou terceira geração. Não se nacionaliza. Ha, porém, razões profundas numa essa irreductibilidade e nessa razão não é porque represente um raça superior: é porque o inglez é rico e tem um vasto Imperio e sua função colonial é ser o melhor e mais rico colono. Sua riqueza, tambem, não decorreu por dispor de aptidões superiores: provem de ter encontrado na sua ilha, á flor da terra, o combustivel, o carvão, justamente na época em quanto os outros paizes da Europa da manufatura a vapor. Só por isso.

Voltando á questão nacional, não podemos fixar qual a forma mais pura da brasilidade. Não o conjunto variegado das suas formas typicas. E' absurdo affirmar que o paulista seja menos brasileiro porque é o typo industrial. A industria sempre foi preoccupação do homem branco, e enquanto São Paulo era uma região agricola, os engenhos do norte eram a primeira atividade industrial. O deslocamento do eixo industrial para o planalto foi phenomeno posterior.

E', pois, mera imaginação, sinão politiquice, tentar presentar qualquer grupo social como sendo mais genuinamente brasileiro que o outro. Os caracteristicos que imprimem a uma communidade as reações da região, não a tornam brasileiras mais ou menos que a uma outra, uma vez que seria pueril querer caraterizar a expressão de brasilidade pela forma pastoril de Minas, industrial de São Paulo, primaria do Amazonas, feudal do velho norte dos engenhos ou guerreira do sul. Todas essas manifestações são genuinamente brasileiras, são traços do mesmo rosto, organicas atividades variegadas de um corpo só.

PROCLAMAÇÃO DA REPUBLICA

A Superintendencia do Ensino Profissional irigiu o seguinte communicado a todos os estabelecimentos de ensino profissional do Estado, inclusive as escolas e cursos particulares:

"Attendendo que a data da Proclamação da Republica seja condignamente commemorada por todos os estabelecimentos de Ensino Profissional do Estado, recommendo a essa Directoria o maximo empenho para o maior brilhantismo das solemnidades que devem ser levadas a effeito por esse estabelecimento no proprio dia 15 do corrente, com a participação do pessoal docente, discente e administrativo da Escola.

Tendo em vista a alta significação historica e politica dessa ephemeride deverá V. S. organisar o devido programma, dando ás commemorações um profundo cunho civico.

De accôrdo com a legislação vigente estas determinações são extensivas a todas as escolas e cursos profissionaes particulares. Attenciosas saudações — Basilides Godoy, pelo supe intendente."

Edição Brasileira

Traducção dos artigos principaes em lingua japoneza

MARECHAL MANOEL DEODORO DA FONSECA

General e homem politico brasileiro, primeiro presidente da Republica brasileira, n. em Alagoas em 1827 e m. no Rio de Janeiro em 1892. Era filho do tenente-coronel Manoel Mendes da Fonseca. Matriculou-se na Escola militar do Rio de Janeiro em 1843, completando o curso de artilharia em 1847; partindo para Pernambuco, que estavam evoltado 1848, distinguiu-se no combate do Recife (1849), onde foi nomeado 2º tenente, e no da Barra de Natuba. Capitão (1852), commandante da Escola Militar (1858), partiu logo no anno seguinte em serviço para a provincia de Matto Grosso de onde regressou em 1862. Em 1864 tomou parte nas operações do Uruguay, como major, e fez prodigios na guerra do Paraguay, sendo-lhe concedido em 1868, attendendo á sua bravura em batalha o posto de coronel, pelo feito brilhantissimo com tres balas em Angustura e Itororó (1868), eminente guerra, onde se portou acima de todo o elogio, diz uma ordem do dia, encarregaram-no de commandar o 1º batalhão de artilharia a pé (1875). Brigadeiro em 1874, marechal de campo em 1884. Era governador do Rio Grande do Sul quando se proclamou, na vigencia do ministerio Cotegipe a agitação em favor dos direitos politicos dos officiaes, que foi o detalho da revolução de 1889. Exonerado do seu cargo em razão da sua attitude assignou com o general Floriano os manifestos de 14 de Maio e 1887, que a segurou a sua popularidade excepcional. Estava na fronteira de Matto Grosso quando se deu a crise ministerial de Junho de 1889, e seguiram-se as eleições que deram a maioria aos liberaes. Chamado ao Rio de Janeiro, tomou a 15 de Novembro a direcção do movimento insurreccional que levou á proclamação da republica. Generalissimo em 1890, proclamando-se a republica, foi chefe do governo provisorio, e foi eleito presidente effectivo a 25 de Fevereiro de 1890. Mas, demasiado autoritario como era, nove mezes depois julgou dever dissolver o congresso, e como esta tentativa de golpe de Estado se malograsse, demittiu-se das suas elevadas funcções, passando desde então a viver num isolamento voluntario.

Commemorações da Proclamação da Republica

O 51.º anniversario da Proclamação da Republica vae ser solennemente commemorado nesta capital, como outr'ora tem sido feito nos annos anteriores.

Como esse objectivo, o Governo do Estado e a 2.a Região Militar, em reunião hontem realisada no salão de honra do Quartel General da rua Conselheiro Chrispiniano, e á qual estiveram presentes os srs. Moura Rezende, Secretario da Justiça exercendo actualmente, as funcções de Interventor interino, general Mauricio José Cardoso, commandante da 2a R. M., coronel José Scarcella Portella, superintendente da ordem politica e Social; tenente Godofredo J. Simões, do Q. G. da Região, e outros elementos civis e militares, deliberaram promover uma serie de solemnidades nesta capital, commemorando, assim, de maneira condigna, a data anniversaria da proclamação da Republica.

Tendo em vista a proximidade da data consagrada á Bandeira Nacional e para a qual estão projectadas grandes manifestações civicas de caracter popular, resolveram os representantes daquelles altos orgams da administração civil e militar deste Estado, delimitar as commemorações da Proclamação da Republica ao Programma que abaixo transcreveros.

O PROGRAMMA

Dia 15 — As 12 horas — Irradiação pelos Radio Cosmos e Cruzeiro do Sul de uma allocução sobre a data pelo tenente Octavio Alves Velho, ao microphone da Radio Piratininga, achando-se a parte musical a cargo de elementos da mesma estação.

As 22 horas — Solenidade de encerramento nos estudios da Radio Record, devendo occupar o microphone o dr. Synesio Rocha, professor da Faculdade de Direito.

NOS QUARTEIS DO EXERCITO E FORÇA POLICIAL

Tambem nos quarteis do Exercito e da Força Policial será festivamente commemorada a data da Proclamação da Republica, com alvorada e hasteamento da Bandeira as 16 horas e formatura das unidades, as 9, afim de ser ouvida a leitura do Boletim bem como uma prelecção feita por official do proprio Corpo.

RETRETAS

A' noite, varias bandas de musica militares realisarão retretas em differentes logradouros publicos desta capital.

O NOTICIARIO ESTRANGEIRO DO «NOTICIAS DO BRASIL» E' FORNECIDO PELA AGENCIA TELEGRAPHICA «DOMEI» JAPONEZA

LEIA O NOSSO

KODOMO NO SONO

Supplemento do jornal "Noticias do Brasil"

A chegada do novo embaixador japonez

RIO, 13 — (Pelo telephone) — A bordo do transatlantico "Argentina", chegou hoje de Nova York o sr. Haro Ichi, novo embaixador do Japão designado para substituir a missão diplomatica japoneza em substituição ao sr. Kazue Kuwajima ora em Tokio a onde foi chamado pelo seu governo.

O embaixador Haro Ichi é extremamente sympatico e de uma encantadora simplicidade, falando aos representantes da imprensa, disse que servia anteriormente em Haya de onde partiu em 16 de Julho para Tokio a fim de receber instrucções para seu novo cargo em nosso paiz. Em virtude do estado de guerra em que se vê envolvida a Europa, teve de atravessar todo o continente europeu e asiatico pela Estrada de Ferro Trans-Siberiana para poder chegar ao Japão via Berlim, Moscou, Wladivostock. Finalisando affirmou que tudo fará para proseguir na campanha de boa amizade iniciada pelo seu antecessor, procurando incrementar as relações de cordialidade entre o Brasil e o Japão.

O diplomata japonez foi recebido por funccionarios do Itamaraty, pessoal da embaixada nipponica nesta capital e membros de destaque da colonia daquelle paiz amigo aqui domiciliada.

O Programma dos Nipponicos com Relação á China

TOKIO, 13 (Domei) — A agencia Domei noticia que os chefes militares e navaes do gabinete conferenciaram durante duas horas com o imperador Hirohito e concluiram um compromisso sobre o programma japonez em relação á China.

AVIÕES DO JAPÃO ATTERRARAM NA INDO-CHINA

HONG-KONG, 13 (Domei) — O jornal inglez "Chine Mail" noticia de Kwanchowan, que aviões navaes japonezes e de transportes militares atterraram em Saigon na Indo-China franceza.

PACTO COMMERCIAL INDO-JAPONEZ

BATAVIA, 13 (Domei) — Annuncia-se que foi concluido um accordo entre os importadores de petroleo do Japão e grandes companhias petrolieras das Indias Orientaes, pelo qual o Japão receberá 1.800.000 toneladas de petroleo por anno.

A caminha de Berlim o embaixador nipônico junto ao governo soviético

ESTOCOLMO, 13 (Domei) — A rádio emissora inglesa comunica que o embaixador japonês em Moscou, general Tatekawa, embarcou para Berlim.

Exportação algodoeira

O commercio de algodão de São Paulo atravessa um determinado momento que offerece perspectivas desanimadoras, alcançou na presente safra lisonheiro movimento não obstante se houvessem pronunciado difficuldades quanto á exportação, porquanto se trata de um acervo de producção de duzentas e noventa mil toneladas, em periodo como o actual, de tão sérias perturbações para nossas relações mercantis com o exterior. Os vultosos embarques de algodão para os mercados do Oriente, notadamente o japonez e o chinez, foram quasi sufficientes para resarcir o deficit resultante da perda dos mercados habituaes na Europa.

Já relativamente á safra do Norte, em franco periodo de colheita, vão se confirmando expectativas pouco encorajadoras. No momento, discute-se a possibilidade do embarque de trinta mil toneladas de algodão nordestino para a Hespanha, dependendo tal operação do que parece, de dois factores decisivos para sua realização: a disponibilidade de creditos que capacitem a nação iberica a adquirir o producto, e a concessão do necessario navicert por parte da Inglaterra, que inclui qual é trabalhoso algodão entre os productos catalogados como contrabando de guerra.

Os mercados exportadores do nordeste são, devido a esta difficuldade arriscados a ficar com um excedente calculado em setenta mil toneladas de algodão, tudo que, sendo calculado em cento e cincoenta mil toneladas a presente safra, a capacidade de consumo das fabricas nortistas e outras para o producto daquella região, não alcança sómente setenta mil toneladas.

Por outro lado já é o momento se vae esbocando uma crise nos mercados exportadores nortistas, tambem devidamente a questão de financiamento. Entre outras medidas, que são aconselhadas como opportunas e seguras, figura a de se crear uma caixa de estabilisação, na qual estejam incluidas as taxas de exportação, sendo que a sugestão de se empregar em negocios junto á missão commercial presidida por Lord Wiggin, no tocante de encaminhar para a Inglaterra — aliás tradicional mercado para o nosso algodão, desde que durante a guerra da Secessão americana fizemos para aquelle paiz embarque de enormes parcellas destes productos — os excedentes da safra nortista.

O JAPÃO DE HOJE

VAE para 80 annos que o Japão sob a chefia suprema do seu grande Imperador Meiji, quebrava o isolamento secular para ensaiar os seus primeiros passos, como potencia, na luta internacional. Era elle, então, um pequeno paiz desarmado e apegado ás suas velhas tradições millenares.

Sem noticias do mundo, a sua gente recebeu a nova era algo atarantada pela marcha victoriosa e acceleradissima dos acontecimentos. Cumpria crear um novo Japão, sobre os alicerces moraes e civicos do velho Japão feudal, surgiam os primeiros tropeços: a ambição estrangeira ocupando por todos os meios e modos o sufocante soberania nacional, a falta de experiencia, de technicos, de reservas economicas. Todas as barreiras, emfim, pareciam de pé contra os desejos do progresso do Imperio. A união de todos os japonezes, porém á volta do throno; o ataque e o golpe final no ambiente feudal; a ancia de aprender que se impoz ou patrioticamente de todos os jovens e, principalmente, a largueza administrativa e politica do então joven Soberano, levaram o paiz a vencer com brilhantismo todas as fronteiras que se levantavam em seus destinos.

E, assim, não sem sacrificios quasi sobre-humanos, o Japão poude ir-se levantando no Pacifico como potencia de primeira grandeza. Vencendo a China em 1894 e a Russia em 1905 e mantendo a Coréa, em 1910, — barrando, de parte, definitivamente a ambição moscovita na Asia — o Imperio poude em poucos annos, resolver a volta dos seus limites geographicos o problema polito que tanto lhe embaraçava a propria existencia. E, de parte, consolidada a nova era no interior pela pacificação e união de todos os espiritos e no exterior, pela clareza dos fins de sua soberania, o Japão tratou, sem ardencia de ganhar no sentido material o tempo das grandes nações occidentaes, atacando em todos os rumos os problemas necessarios ao seu gigante e colossal programma de reerguimento em terras para arar, sem materias primas e accordo pelo mais elevado patriotismo da unanimidade o Nippon visse frente a frente os mais graves questões que podem affligir uma patria disposta a tudo perder ou ganhar em honra no concerto da civilização.

Emigrar, exportar e colonizar foram estes tres rumos que constituiram a questão do destino japonez. No fundo dos gananciosos, porém, os estadistas nipponicos viam á luz fria das estatisticas, que ante o quociente annual de 1 milhão de almas da natalidade do Imperio, uma emigração de 30, 40, 50 ou 100 mil individuos por anno, não seria mais uma solução para o problema demographico japonez. Restavam apenas os dois outros caminhos: a exportação e a colonização esta ultima interessante, bastante problematica uma vez que o Japão chegava tarde demais á partilha do mundo. Praticamente só lhe restou e lhe está a solução do made in Japan, isso é, da industrialização. A ella atirou-se com todo o enthusiasmo a nação, baseado sobre o potencial das suas quédas d'agua e das suas jazidas de carvão, as bases do seu parque industrial, hoje uma das mais gloriosas realidades do seu povo.

Valendo-se da aplicação das frotas mercantes internacionaes e pouco a pouco construindo a sua propria armada de commercio, o Imperio japonez começou a levar a todos os continentes as suas mercadorias, entrando com a rapidez que lhe permitia a sua industria e a vontade dos seus filhos, estejam elles onde estiverem. Os romanos tambem eram assim. O inglez é sempre inglez, na primeira, segunda ou terceira geração. Não se nacionaliza. Ha, porém, razões profundas numa essa irreductibilidade e nessa razão não é porque representa um raça superior: é porque o inglez é rico e tem um vasto Imperio e sua função colonial é ser o melhor e mais rico colono. Sua riqueza, tambem, não decorreu por dispor de aptidões superiores: provem de ter encontrado na sua ilha, á flor da terra, o combustivel, o carvão, justamente na época em quanto os outros paizes da Europa da manufatura a vapor. Só por isso.

Voltando á questão nacional, não podemos fixar qual a forma mais pura da brasilidade. Não o conjunto variegado das suas formas typicas. E' absurdo affirmar que o paulista seja menos brasileiro porque é o typo industrial. A industria sempre foi preoccupação do homem branco, e enquanto São Paulo era uma região agricola, os engenhos do norte eram a primeira atividade industrial. O deslocamento do eixo industrial para o planalto foi phenomeno posterior.

E', pois, mera imaginação, sinão politiquice, tentar presentar qualquer grupo social como sendo mais genuinamente brasileiro que o outro. Os caracteristicos que imprimem a uma communidade as reações da região, não a tornam brasileiras mais ou menos que a uma outra, uma vez que seria pueril querer caraterizar a expressão de brasilidade pela forma pastoril de Minas, industrial de São Paulo, primaria do Amazonas, feudal do velho norte dos engenhos ou guerreira do sul. Todas essas manifestações são genuinamente brasileiras, são traços do mesmo rosto, organicas atividades variegadas de um corpo só.

PROCLAMAÇÃO DA REPUBLICA

A Superintendencia do Ensino Profissional irigiu o seguinte communicado a todos os estabelecimentos de ensino profissional do Estado, inclusive as escolas e cursos particulares:

"Attendendo que a data da Proclamação da Republica seja condignamente commemorada por todos os estabelecimentos de Ensino Profissional do Estado, recommendo a essa Directoria o maximo empenho para o maior brilhantismo das solemnidades que devem ser levadas a effeito por esse estabelecimento no proprio dia 15 do corrente, com a participação do pessoal docente, discente e administrativo da Escola.

Tendo em vista a alta significação historica e politica dessa ephemeride deverá V. S. organisar o devido programma, dando ás commemorações um profundo cunho civico.

De accôrdo com a legislação vigente estas determinações são extensivas a todas as escolas e cursos profissionaes particulares. Attenciosas saudações — Basilides Godoy, pelo supe intendente.